

# 「おたがいさま」を世界へ

コロナウイルス禍が続く中、子育てや介護、心身の障害などさまざまな困難を抱える人に助け合いのバトンをつなぎ、誰もが生きやすい社会を作ろうと呼びかける。

子連れで参加できるビジネス講座をオンラインで開いている一般社団法人「ぶちでガチ」(宇治市)が、「おたがいさま」の精神を世界に発信する活動を展開している。新型

## 京都の社団法人

同法人は、日本記念日協会(長野県佐久市)に申請し、登録を受けた「子連れの日(5月20日)」に合わせ、「おたがいさま」をテーマにしたエピソードを公募した。

この結果、「おたがいさま」という魔法の言葉で車いすでの外出の怖さが減った▽発達障害がある子どもと新幹線に乗った時に見知らぬ男性に助けられた▽社内に共同保育室を設けたーなど、



オンラインで開かれた「お互いさま」に関するエピソードの表彰式。社内に共同保育室を設けた設計事務所などが受賞した(5月20日)

国内外にエピソード公募・インターネットで意識調査

## 個性生かせる社会作りたい

国内外から77件の応募があった。5月20日にオンラインで表彰式を開催したところ、視聴者から「わたしも優しい言葉をかけられるようになりたい」「すてきな考え方」などの感想が寄せられたという。

代表理事の赤坂美保さん(46)は小学生の男児2人の母。レストランや電車内で子どもが騒がしいと怒られることもあったが、「おたがいさま」の言葉に救われたと振り返る。子育て中の女性の参加者が多い同法人の活動でも、「おたがいさま」とよく言い合っていることから、「MOTTAINAI(もったいない)」のように「O TAGAISAMA」も世界に広めたいとエピソードの公募を思いついたという。

同時にインターネットで10〜70代の約400人に行った意識調査でも「人に迷惑をかけてはいけない」という考え方も「困った人がいたら助けよう」という価値観が主流になっていることが分かったという。赤坂さんは「助け合う関係性の豊かさを広め、子どもたちの世代のために誰もが個性を生かせる社会を作りたい」と話している。(今口規子)

1日1通届く「おはよう。元気だよ」

えて」と伝えると、あいさつなど短いメッセージを送ってくるようになった。